

令和3年度 第1回文化財保存活用地域計画策定委員会議事録

日時：令和3年8月3日（火）午後4時～午後6時

会場：千代田区日比谷公園図書館文化館4階スタジオプラス（小ホール）

出席者（敬称略）：

委員

【学識経験者】

谷川 章雄	岩淵 令治	三友 奈々
山崎 鯛介	瀬戸口 龍一	
齋藤 慎一	田中 晴子（Zoom 出席）	

【文化財保存活用支援団体】

鈴木 宏昌	太田 耕司	深野 恵津子
西秋 美岐子	三田 雅康	北島 敦子

【文化財所有者】

高原 聖司	岸川 雅範
-------	-------

【商工・観光関係団体】

高山 肇	山崎 真理
------	-------

オブザーバー

原 眞麻子（Zoom 出席）	小野口 史恵
----------------	--------

行政委員

大矢 栄一	大塚 立志	夏目 久義
永見 由美	前田 美知太郎	
大谷 由佳	佐藤 武男	

事務局

高木 知己	山田 将之	相場 峻
駒場 梓	篠原 杏奈	濱口 皓

配付資料：次第

委員名簿

資料1 千代田区文化財保存活用地域計画の策定について

資料2 千代田区の文化財行政の取組等について

資料3 地域計画の策定スケジュール

## 議事内容

### 開会

1 千代田区文化財保存活用地域計画策定委員への委嘱状交付

2 あいさつ ー文化スポーツ担当部長ー

3 委員紹介

4 事務局紹介

5 委員長・副委員長の選任

～委員長に谷川委員、副委員長に山崎委員を選出～

6 会議の公開について

～「千代田区附属機関等の設置及び運営並びに会議等の公開に関する基準」に則り、公開とする～

7 議題

～事務局より地域計画に関する趣旨説明、策定スケジュール説明及び配布資料の説明～

～意見交換～

(三田委員)

- ・有形文化財等の文化財の分類方法は、一般的になじみの薄いものであるため、区民に対するわかりやすい説明が必要ではないか。
- ・日比谷図書文化館の展示環境に課題があるとのこと。この機会に適切な設備を持った博物館や美術館の設置も考えられないか。
- ・さまざまなデザインの説明板等が乱立しているため、統一したほうがよいのではないか。

(谷川委員長)

- ・文化財の分類と区民のイメージがかけ離れているのは埋める作業が必要。
- ・展示は文化財の根幹の問題。一朝一夕に解決が困難な部分もある。
- ・説明板については、記載内容に誤りがあることも課題であり、調整が必要と思われる。

(深野委員)

- ・三田委員と同じく、説明板等の整理が必要なのではないか。

(高原委員)

- ・QRコードを設置するなど、従来の大きい看板を設置するのではなく、デジタル技術を活用する方法も考えられるのではないか。

(谷川委員長)

- ・最近はさまざまなデジタル技術もある。スマホなどの端末を有効利用するのもよい。

(岸川委員)

- ・遠方からお越しになる方々だけでなく、区民の方々に還元していくことが重要である。

(事務局)

- ・三田委員から指摘のあった展示環境については、昨年度から専門業者に依頼し、環境面の課題等を調査している。展示ケースを入れ替えるなど、展示環境の向上を図っているところである。
- ・区としては、東京オリンピック・パラリンピックにあわせて定めた「千代田区公共サインデザインマニュアル」に則り、色や形等デザインを統一している。文化財事務局が設置している標柱や説明板についても、そのマニュアルに則り平成28年度から4年間かけて立替え、QRコードの記載や多言語化等の対応を行った。ただし、設置主体が異なるものについては、それぞれ形状も異なるのが現状である。

(太田委員)

- ・区民の方々に文化財を身近に感じてもらうためのはじめの一步が初等教育にあると考える。子どもでもわかりやすい、興味を持つような展示があれば、文化財をさらに活用できるのではないか。

(齋藤委員)

- ・江戸東京博物館は、修学旅行、社会科見学などと内外の利用者が多い場所である。事前申込の際に質問項目をいただいて、それに対して解説をしたりする。また実地見学に来た先生方に対して博物館を案内したりもしている。ただし都道府県レベルの博物館では、地域という視点からは少しづれてくる面もある。

(高山委員)

- ・文化財をどのように活用していくかが一番大事なのではないか。活用することで、区民の文化財保存に対する理解が深まると考える。
- ・千代田区観光ビジョンは、区民の地域に対する誇りが観光に結びつくという考え方が中心にあるが、多くの方が千代田区の文化財を誇りに思っていることが大事だと考える。

(山崎委員)

- ・観光協会で作成している歴史散歩マップが非常に人気である。千代田区に訪れる観光客は皇居を始めとした歴史あるものに非常に興味を持っている。観光客の方々に、千代田区には素晴らしい文化財がたくさんあり、非常に良い状態で保存されていると伝わることで、区民の誇りとなっていくと考える。

(谷川委員長)

- ・文化財は、活用するものはしていく必要がある。一般の人たちが、文化財に対して様々な価値を持ってほしい。そのためにも公開、活用はすべきである。またなんでもかんでも活用ではなく、文化財の価値と活用が相乗効果でプラスになる方向に向かってほしい。
- ・高山委員の意見を踏まえれば、区民も観光のある種の主体になる。例えば区内の人が神田神保町に行くなどである。インバウンドだけを考えるのではなく、文化財にふさわしい活用の仕方を考えるべきである。

(山崎副委員長)

- ・建築のリノベーションとその活用は、最近非常に人気である。次の新しい環境を生み出すきっかけになるものがあって、それが点であるよりは線、線であるよりは面となるように周辺的环境とも上手に繋がれると、建築はコアになる可能性がある。
- ・必ずしもその建築単体で非常に価値が高くなければならないわけではなく、組み合わせが重要であり、できるだけ多くのものを発見して各々に役割を与えていくのが良いと考える。

(谷川委員長)

- ・博物館と図書館の関係にも難しい課題がある。展示機能を持つ図書館と博物館がジョイントすれば、ひとつ世界が開けるのではないか。

(北島委員)

- ・区立図書館が持っている機能として、千代田区立図書館の特設コーナー（ギャラリー）が気に入っている。特設コーナーでは、テーマを決めてさまざまな資料がいろんな角度から展示されており、ミュージアム的な要素を備えていると考える。そうした意味で図書館が持つ役割は非常に重要で、図書館から文化財に関する発信を積極的に取り組んでいきたい。

(齋藤委員)

- ・地域計画の中では、地域のいろいろな施設と連携していくことも重要な課題だ。その地域というのは、千代田区全体ではなく、さらに小さな地区となると考えているが、博物館や

図書館はその中心となる施設として機能していく、むしろそのように位置付けていかないといけないと考える。

(田中委員)

- ・東京ステーションギャラリーでは、千代田区と連携して「夢二繚乱展」を開催させていた。美術館や博物館の性格、展覧会や収蔵品の性格、そこに区所有の収蔵品がうまくかみ合えば、お互いの力を使って新たな取組が可能になると考える。そのためにも、資料の調査研究という基盤が大切で、そうした活動がうまくできるような形で活用されていくのが望ましい。
- ・ミュージアム連絡会のような千代田区におけるつながりを生かし、連携をさらに広げていくことが区民ためにもなると考える。また区の中に、つながりを作る役割を果たす人材も必要である。

(鈴木委員)

- ・地域から見ると、文化財そのものがどのように活用できるのか、具体的にはわかってない。一番身近な入り口になるのは、町名由来板等であると考え。そうしたものが目立たない、見にくいということがないように改善していく必要があると考える。

(西秋委員)

- ・区民の中には、区の歴史や文化に関心がないという方が多くいるが、もったいないことだと考える。特に次世代の子どもたちに対して、再開発前の風景などのまちの記憶を継承していかななくてはならないと考えている。

(瀬戸口委員)

- ・学生に通っている地域やキャンパスの周辺を知ってもらう機会を設けているが、なかなか自発的に地域をまわる学生は少ない。逆に、保護者が地域を知りたいという要望を持っており、入学式の後に、保護者を対象としたまち歩きツアーを実施している。関心のあり方はさまざまであり、特に通学者や通勤者を取り上げるのであれば、それも考慮する必要性があると考え。

(岩淵委員)

- ・アンケートで、地域の方々、在勤・在学の方々がどのような文化財に関心を持っているかについて、どのように掬い上げ、委員会の議論にのせるかが重要だと考える。
- ・指定文化財と登録文化財の他に、地域住民が自分たちの文化財として独自に指定していく制度をとっている自治体もあるが、学術的な見地で指定するものだけでなく地域の方が重要だと思うものも含めて文化財として挙げていくことが重要で、それが地域計

画のポイントのひとつになる。

- ・経済効果に直結する文化財ばかり選んで活用するのではなく、取り組みを継続していくためには地域でなにを残していきたいかを考える必要がある。

(三友委員)

- ・千代田区には文化財がたくさんあるが、身近に感じづらい。格式の高さが敷居の高さにつながってしまっているのがもったいない。入っていきやすいというのが大事であると考ええる。
- ・まちづくりの視点から一番大事なのは、文化財と区民の方をつなぐその場や方法をどう整えるか、どう設定するのかということだ。区民だけではなく、外国人の方、さまざまな年代の方、それぞれにどう配慮していくか工夫することで、文化財を少しでも身近に感じてもらえるのではないか。

(谷川委員長)

- ・身近な文化財から地域課題はあるべき。
- ・千代田区には日本を代表する国指定文化財があり、素晴らしい文化がある。裾野を含めて総体が文化財という考え方をすべき。

(原委員)

- ・博物館法の所管が文化庁に移り、博物館を観光の一要素として捉えるべきなのではないかという議論をなされている中で、博物館法を変えていこうという動きがある。そうした動きにも注目しながら、議論を深めていただきたい。
- ・博物館の文化資源を活用するにあたっては、その資料に対する調査研究が非常に大切である。しかし、文化財に指定したことで、かえって縁遠く敷居が高く研究しづらいものになっている。
- ・文化財は学術的に価値が高いものを指定しているが、一方で地域の方々がなにを大切にしているかという視点も大切である。地域の人々が、その地域に愛着を持って、このまちを代表するものとして、なにを子どもたちや来訪者に伝えていきたいのかがとても大切だと考える。

(谷川委員長)

- ・本日の意見交換は非常に重要であった。文化財に関する有識者の委員と地域の代表の委員の意見や考え方をうまく整合させて、今後の議論に活かしていきたい。

8 その他

- ・次回の日程等の事務連絡

以上